

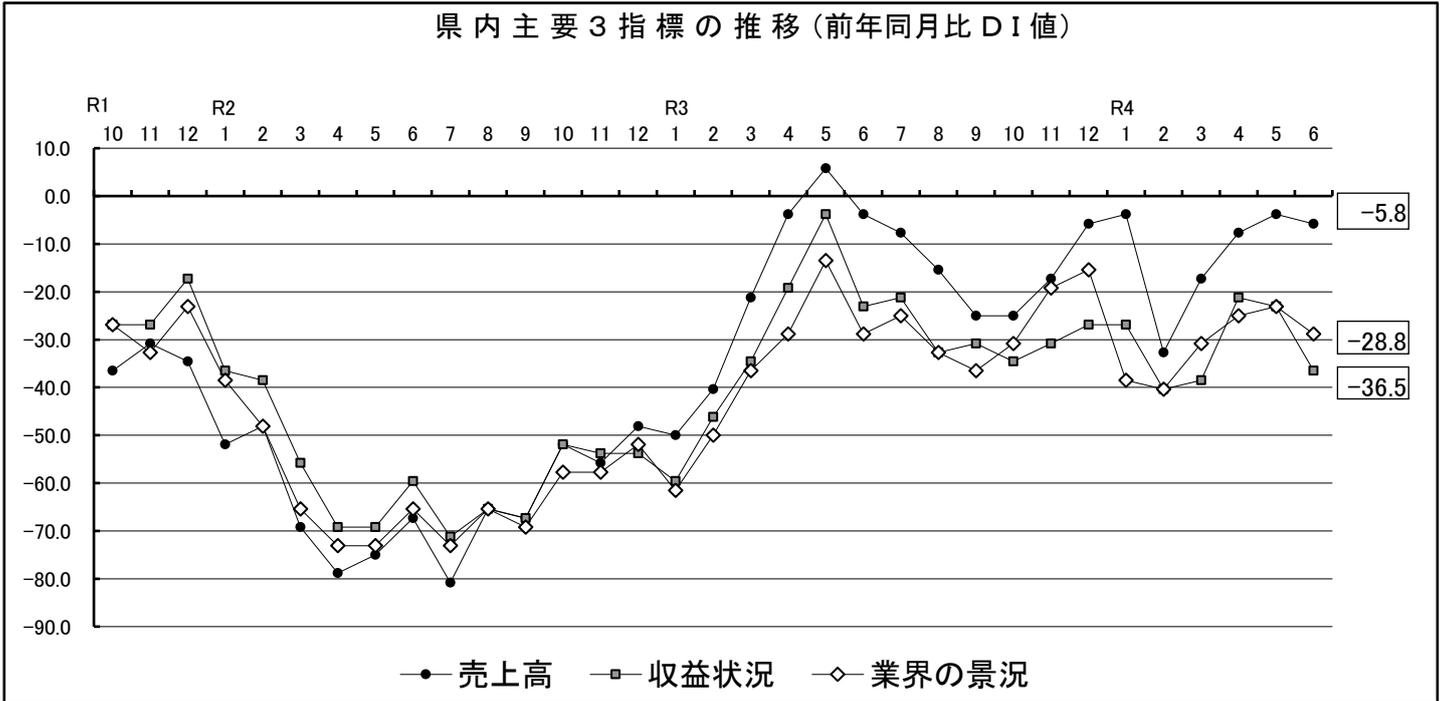
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和4年6月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員(中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員52名に委嘱)による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標は全て下降した。
- 製造業で「鉄鋼・金属」、非製造業で「小売業(飲食業含む)」が特に厳しい。
- 引き続き、燃料や資材の高騰・調達難、円安による影響が懸念され、予断を許さない状況である。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-5.8	-1.9	-0.1	+1.3
収益状況	-36.5	-13.5	-29.3	-0.4
業界の景況	-28.8	-5.8	-23.6	+0.1

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より1.9ポイント下降し、-5.8ポイントとなった。全国においては、前月より1.3ポイント上昇し、-0.1ポイントとなった。

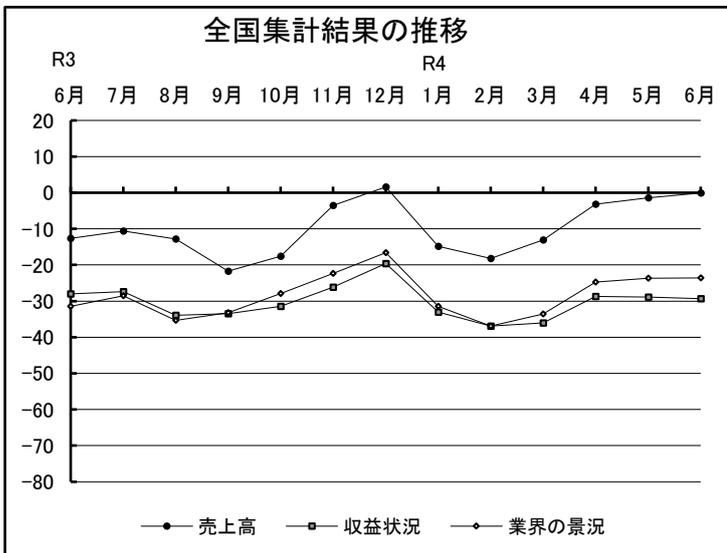
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より13.5ポイント下降し、-36.5ポイントとなった。全国においては、前月より0.4ポイント下降し、-29.3ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より5.8ポイント下降し、-28.8ポイントとなった。全国においては、前月より0.1ポイント上昇し、-23.6ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概況-

6月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中6指標が下降した。主要3指標は「売上高」は1.9ポイント下降、「収益状況」は13.5ポイント下降、「業界の景況」が5.8ポイント下降となった。

業種別・指標別にみると、製造業全体では「鉄鋼・金属」が全体的に下降し厳しい。原材料の高騰と併せて一部でスクラップ価格が下落傾向にあり収益を圧迫している。また、部品不足によるメーカーの相次ぐ稼働停止で生産が不安定な状態である。「木材・木製品」においては、ウッドショックは落ち着いてきたが合板不足や原材料・エネルギー価格のさらなる高騰を懸念している。非製造業においては、「小売業(飲食業含む)」で依然として厳しいマイナス状態が続いている。

相次ぐ原材料・燃料費の高騰により価格転嫁に苦慮しているとの報告が各業界から寄せられている。また、人手不足の問題のほかにも一部業種では部品不足により臨時休業するなど前月よりも深刻化している様相が見られる。一方で、現在の経営状況を改善すべく新たな施策を思案する動きも出てきている。

引き続き、燃料や資材の高騰・調達難、円安による影響が懸念され、予断を許さない状況である。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	100.0	0.0	50.0	-25.0	-50.0	-25.0	0.0	0.0	-50.0
繊維・同製品	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0
木材・木製品	50.0	25.0	75.0	0.0	0.0	-25.0	25.0	-25.0	-50.0
印刷	-100.0	0.0	-100.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
窯業・土石	-50.0	0.0	0.0	0.0	-50.0	0.0	-50.0	-50.0	-50.0
鉄鋼・金属	-50.0	-25.0	50.0	-25.0	-50.0	-50.0	-50.0	-50.0	-50.0
一般機器	-25.0	-25.0	25.0	0.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0	-50.0
製造業	8.0	-4.0	28.0	-8.0	-36.0	-20.0	-20.0	-28.0	-40.0
卸売業	66.7	0.0	66.7	33.3	33.3	0.0		0.0	66.7
小売業	-57.1	-14.3	14.3	-42.9	-71.4	-28.6		0.0	-57.1
サービス業	0.0		33.3	-16.7	-33.3	0.0		16.7	0.0
建設業	-20.0		0.0	-20.0	-40.0	0.0		-20.0	-20.0
運輸業	-50.0		0.0	25.0	-50.0	0.0		0.0	-50.0
その他	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-18.5	-10.0	18.5	-11.1	-37.0	-7.4		0.0	-18.5
全体	-5.8	-5.7	23.1	-9.6	-36.5	-13.5	-20.0	-13.5	-28.8

図表2 【指標別DI値の推移】

	3年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	前月比
売上高	-3.8	-7.7	-15.4	-25.0	-25.0	-17.3	-5.8	-3.8	-32.7	-17.3	-7.7	-3.8	-5.8	-1.9
在庫数量	-14.3	-20.0	-17.1	-25.7	-8.6	-8.6	-20.0	-5.7	-8.6	-20.0	-17.1	-14.3	-5.7	8.6
販売価格	-5.8	3.8	0.0	-3.8	3.8	5.8	11.5	9.6	15.4	21.2	25.0	25.0	23.1	-1.9
取引条件	-15.4	-11.5	-13.5	-17.3	-11.5	-17.3	-9.6	-5.8	-5.8	-7.7	-7.7	-9.6	-9.6	0.0
収益状況	-23.1	-21.2	-32.7	-30.8	-34.6	-30.8	-26.9	-26.9	-40.4	-38.5	-21.2	-23.1	-36.5	-13.5
資金繰り	-21.2	-15.4	-23.1	-23.1	-21.2	-15.4	-13.5	-15.4	-26.9	-21.2	-13.5	-11.5	-13.5	-1.9
設備操業度	0.0	4.0	0.0	0.0	-8.0	-16.0	-4.0	-8.0	-28.0	-12.0	-20.0	-16.0	-20.0	-4.0
雇用人員	-11.5	-5.8	-7.7	-5.8	-15.4	-9.6	-7.7	-11.5	-11.5	-5.8	-7.7	-13.5	-13.5	0.0
業界の景況	-28.8	-25.0	-32.7	-36.5	-30.8	-19.2	-15.4	-38.5	-40.4	-30.8	-25.0	-23.1	-28.8	-5.8

特記事項

情報連絡員報告（令和4年6月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	原材料・エネルギーの状況は変わらず今後の値上げが心配である。
繊維工業	縫製業	夏物商品の受注加工分は終了した。昨年が悪すぎたので昨対比は伸びているが、平年度と比較すると順調とはまだ言えない。
	染色繊維業	あまり変化はない状況にある。諸物価の高騰下にあり厳しい。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	前月同様、今月も売上自体は比較的堅調に推移。数字上はコロナ前の水準まで戻したが、国内需要は復調しておらず、景況感はまだ不安定と感じる。徐々に雇用調整助成金等の利用に頼らず会社経営を行えるように新たな施策を考えていかなければならないと考える。最近、リサイクル素材の商材の問い合わせが多く、商品化できないか社内で検討中である。
木材・木製品	一般製材業	住宅用建材の合板が不足している状態である。ウッドショックについては落ち着きを見せているが、合板不足が今後どう影響をしていくのか懸念している。
	家具・建具製造業	売上（引き合い含む）は増加回復傾向にあるものの、原材料・エネルギー価格の高騰により収益は悪化している。これらの状況は長期化するものと予想され、景況感悪化を強めている。
	建具製造業	弊社工場は受注旺盛で酷暑の最中もフル稼働しているが、人員不足が要因である。昨期より各種求人をつけているものの営業系で成果はあったが、製造系・事務系では人材確保が厳しい。また、卸売業務では受注確保に苦戦しており、同様に各建具製造メーカーも受注量が安定しないようである。さらに、昨年以上に資材、材料の高騰と入手難は続いている。
印刷	印刷業	ウクライナ問題等により、紙・版など原材料の更なる値上げが予告されている。価格転嫁したいが、それにより需要が更に減少しつつある。（ペーパーレス化等）業態変革が迫られている状況である。
窯業・土石製品	陶磁器・同関連製品製造業	梅雨期とともに観光客が減少傾向にあり、焼物屋生産量も減少していると感じる。例年でも夏場は売上減少傾向にある。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	鋼材においては、原材料価格が更に高騰を続けているが、一方でスクラップ価格は下落傾向にあり利益を圧迫している。自動車関連は、依然として部品不足によりメーカーの相次ぐ稼働停止で、臨時休業を実施した企業もあり生産の不安定に苦慮している。業務全般に関わる物価の高騰に価格転嫁が追いつかない。梅雨明け以降の猛暑続きで、就労環境も厳しく、更には電力不足対応とコロナウイルス対応以上に職場の環境改善が求められて来ている。
	金属製品製造業	売上高が増加したが、材料費の値上がり分を有償支給したことが要因である。
一般機器	一般機械器具製造業	燃料費の高騰、電気料金の燃料調整額の大幅な上昇が不安材料になっている。企業間によって格差が大きい。収益がある企業と悪化している企業がはっきり分かれている。
	一般機械器具製造業	令和4年6月の報告は前年同月と比較し、売上高がやや減少傾向にあるものの全般的にほぼ不変という結果であった。仕入れ資材の状況は引き続き高値安定が続いている。操業度（稼働）、収益状況はほぼ前年同様といったところである。引き続き今後の新型コロナウイルスの感染状況や化石燃料の上昇等の懸念があるが、政府の経済対策の期待もあり今後の動向を注視していく。
	一般機械器具製造業	半導体不足・部品不足・ウクライナ情勢・参議院選挙・電力不足・酷暑など悪条件が重なり景気の上向く気配は全くない状況である。

卸売業	化粧品卸売業	業況に大きな変更もなく、今のところ半導体関係以外の商品の値上はないが、メーカーより円安の影響により値上げをほのめかす発言が出ている。
	各種商品卸売業	一部業種を除き全体として売上高、業況等は前年同期に比べて好転となっている。各社とも仕入単価上昇により販売価格も上昇している。
小売業	中古自動車小売業	新車製造が滞り、中古車の発生が大きく減少。中古車の海外バイヤーが購入意欲旺盛で円安もあり相場は上昇。仕入が困難になってきている。新車代替の中古需要は大きくなく、車検を取って新車待ちもある。収益は厳しい。
	各種商品小売業	全体として、新規テナントは好調に推移しているが既存店に関しては相変わらず厳しい状態が続いている。客数比も数ヶ月横ばい状態であり、この限られた客数の中でどう工夫していくか、各テナントが真剣に考えていかなければならない。
	花・植木小売業	10年前までは、6月は婚礼の多い季節。ここ数年は、雨の多い時期ということで施行が減ってきていたがコロナ禍となり更に減少。しかし、本年6月に入り規模は小さいが施行が戻ってきたような気配もある。葬儀については、少しずつ大規模葬も行われた。花材価格の高値が続き苦労している組合員も見られる。
サービス業	理容業	コロナ感染が落ち着いてきて、組合の活動も少しずつ、元通りに戻りつつある中、後継者のいない高齢組合員の廃業・脱退が目立っている。組合員減少を食い止めるため、新規組合員獲得を目標としていきたい。
	旅館・ホテル	(宿泊) いちご一会とちぎ国体のリハーサルを兼ねたスポーツコンベンションが数多く開催され、宿泊者数が上昇している。(宴会) 新型コロナウイルス感染拡大により100%ダウン。(飲食店) まん延防止措置の解除により客数は少しずつ戻りつつあるがコロナ前と比較すると足りない状況である。
	食品製造業	ここへ来て、諸物価の高騰が阻害要因となり始めてきた。今年の4月から一部弁当価格の値上を実施したが収益面での効果を得られず、今後全ての商品での価格見直しを行う予定である。給食業界においては、同業者間での競争の激化、中食産業の台頭による市場の圧迫感から、収益性の低下により組合の解散や閉鎖が相次いできた。
建設業	総合工事業	建設資材については、コンクリートなど全般的に急激な価格上昇となっている状況であり、今後の影響を懸念している。
	職別工事業	円安等により原材料費などの上昇が収益を圧迫している。売上高においても対前年比に対して約10%ほど減少している。
運輸業	貨物自動車運送業	自動車生産減、建設資材不足等により荷の動きが悪くトラックの稼働が少ない。燃料価格の上昇分の、取引価格への反映が良くなってきているが従来通り価格を転嫁できない事もあり厳しい状況。
	貨物軽自動車運送業	半導体不足による自動車メーカー、大手家電メーカーからの受注は低迷が続いている状況にある。食料品、衣料品、建築資材も全体的に荷動きは良くない。四半期決算でも厳しい現状である、今後に向けての対策が急務である。
	一般乗用旅客自動車運送業	6月に入り、県内のコロナウイルス感染者が減少傾向になり、他県からのお客様も増加に転じている。平日、深夜までの人流増加には至っていないが週末は賑わいが戻っている。